

**オムロン株式会社 2018年度 3Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答（サマリー）**

（2019年1月30日、東京）

<全社業績、経営・戦略>

Q：2015年度のチャイナショックと比べて今の状況はどうか？

A：現在の方が明らかに事業基盤が強固になっている。2015年度は、本社直轄事業に含まれるバックライト事業や環境事業が売上を落とした。その反省から制御機器事業とヘルスケア事業により一層注力するようになった。制御機器事業が中国の注力4業界で着実に成長していることには手応えを感じている。

Q：売上高の減少幅に対して、利益の減少幅が大きい。経費コントロールは十分と考えているのか。

A：打ち手は実行しているが、経費コントロールは充分ではなかったと認識している。
利益率が高い制御機器事業のマイナスが、他ではリカバーできないインパクトとなってしまった。

Q：売上高に占める販管費率は来年以降、どれくらいをターゲットとしているのか？

A：2017年度からスタートした、4年間の中期経営計画VG2.0では、販管費率24%をターゲットにしている。
売上高や事業環境に左右されるところもあるが、中長期的な成長を見据えた投資を実行しながら、規律を持った経費運営をしていく。

Q：本社費用は来年以降、どの程度減らすことを考えているか？

A：VG2.0では前半の2年間はしっかりと投資を行い、後半の2年間で刈取りをするという想定で考えている。
短期的に人員削減などの打ち手を実行するのではなく、IT投資やバックオフィスの在り方、オペレーションの在り方などをドラスティックに変えていきたい。

<制御機器事業 関連>

Q：4Qの事業環境は、12月からさらに悪化するという理解でよいか？

A：12月から若干弱めで見ている。12月の状況からさらにもう一段悪化するという見方ではない。

Q：制御機器事業はいつ頃回復に向かうと見ているのか？

A：現時点で回復する時期は見通せていない。元々、半導体は下期に回復すると見ていたがもう少し遅れそう。
タイミングは読めていないが、米中貿易摩擦の状況が改善すると、その後一気に回復するかもしれない。

Q：10月の決算発表では、自動車向けの投資が増加する見通しだった。この点に変調はないのか？

A：自動車は依然、前年比プラスで推移している。しかし、ADASやEVなど次世代投資は堅調だが、保守・メンテナンスなど既存の設備向け投資は大幅に落ち込んでいる。